

カワサキ★U18 レポート

vol.1

川崎市では、市をもっと良くするために、子どもたちが中心になって話し合う「川崎市子ども会議」を開催しています。子ども会議では、1 年間のテーマを決めて定例会議で話し合いを行っています。が、「カワサキ★U18」と題して、いろいろな子どもとの話し合い、さらには大人との話し合いを通してまとめた意見を、市長に伝える企画も行っています。今回は 7 月までのカワサキ★U18 などの様子を紹介します。

1/14 川崎市子ども会議 定例会議「令和 6 年度テーマ候補の検討」

川崎市に在住または在学・在勤などの小学 4 年生～ 18 歳までの皆さんから、まちに対して想っていることや感じていることを寄せていただく「子ども・若者の“声”募集箱」に届いた意見の中から、令和 6 年度のテーマ候補を次の 2 つとすることとしました。

- ・「子どもが考える地震のそなえ」
- ・「居たい！ 見たい！ やってみたい！ 放課後の過ごし方」

3/28 カワサキ★U18 「テーマ候補について市長と意見交換」

令和 6 年度のテーマ候補の「子どもが考える地震のそなえ」と「居たい！ 見たい！ やってみたい！ 放課後の過ごし方」について、川崎市子ども会議のメンバー（子ども委員）や今日のために集まってくれた幅広い子どもたちが、市長と意見交換を行いました。



子どもからは、「子どもの避難所運営会議を開いてほしい」、「地震に備えて普段から近所の人たちと仲良くなることが大切」、「自由にボール遊びができる場所がほしい」、「一人になれる場所がほしい」などの意見が出されました。

市長からは「（子どもたち）みなさんの意見は市民として大切な意見です。これからも今日いただいた意見を大切にして市政に生かしていきたいと思います」とのお話がありました。

4/21 川崎市子ども会議 定例会議「令和 6 年度のテーマを決めよう」

「子どもが考える地震のそなえ」と「居たい！ 見たい！ やってみたい！ 放課後の過ごし方」の 2 つ候補について、どちらを令和 6 年度のテーマにするか話し合いをしました。

グループを作り、それぞれのテーマについて、知りたいことや疑問なことについて話し合い、今後 1 年間かけて検討していきたいテーマについて意見を出し合いました。

その結果、「子どもが考える地震のそなえ」を令和 6 年度のテーマに決定しました。



令和 6 年度テーマ 「子どもが考える地震のそなえ」

川崎市子ども会議 定例会議 「地震が起こったとき子どもたちが心配なことや困ることは？」

学校にいるときに地震が起こった場合、先生の指示に従い避難を行います。子どもが一人にいるときに地震が起こった場合はどうしたらいいのでしょうか？ 6月2日の定例会議では、家に一人にいるとき、外に一人にいるときに、地震が起こった場合、子どもたちが心配なことや困ることについて意見を出し合いました。

7月7日の定例会議では、前回出た意見の中から、「(大人ではなく)子どもが特に困ること、どのように解決すればいいかわからないもの」を選び、なぜ心配か、なぜ困るのか、さらに意見を深めました。



【主な意見】

(1) 「一人で家にいるとき」に、子どもが特に心配なこと・困ること

ハザードマップ等の読み方が分からない

＜なぜ心配か？・なぜ困るか？＞

- ・危険な場所がわからない→ケガをする
- ・何をすればいいかわからない、正しい判断ができない
- ・津波などの災害にまきこまれる
- ・避難する場所がわからない
- ・子どもは地図が読めない
- ・縮図だから小さすぎてパッとみたときにわからない

子どもでもわかる情報があるか

＜なぜ心配か？・なぜ困るか？＞

- ・何が起きているか、どこが危険がわからなくて、不安・パニックになる
- ・今、何をすればよいかわからない
- ・逃げる場所、逃げ方等が分からなくなる
- ・危険と言われても自分の地域がどうなのかわからない

(2) 「一人で外にいるとき」に、子どもが特に心配なこと・困ること

スマホが使えなかったら

＜なぜ心配か？・なぜ困るか？＞

- ・今の状況に関する情報がわからないので、正しい判断がしにくい
- ・家族など普段関わる人と連絡がとれない
- ・どこの道かわからなくて道に迷う
- ・災害伝言ダイヤルが使えなくなる

知らない場所にいたら

＜なぜ心配か？・なぜ困るか？＞

- ・帰り方がわからない
- ・家族と会えなくなる

(3) 「一人で家にいるとき・一人で外にいるとき」共通で、子どもが特に心配なこと・困ること

ケガをしたら

＜なぜ心配か？・なぜ困るか？＞

- ・ケガがもとで病気になる
- ・自分が一人だけケガしたら取り残されてしまう
- ・あぶないところから逃げられない
- ・足をけがしたら歩けない・走れない

家族と連絡できなかったら

＜なぜ心配か？・なぜ困るか？＞

- ・どこに行けばいいかわからない
- ・危険な場所に行ってしまう
- ・家族のいる場所がわからなくなる
- ・不安になってさみしい

カワサキ☆U18 「地震のそなえについて子ども同士の話し合い」

これまで定例会議で話し合いをしてきた「地震が起こったときに子どもが特に心配なこと・困ること」に対して、「どのようなそなえをすればよいか」について、川崎市子ども会議のメンバーに加え、今回のために集まってくれた子どもたちも含めて、グループに分かれて話し合いを行いました。



今回の U18 では、子どもにとって必要な地震のそなえとして、子どもが理解しやすい情報発信や、いざというときに助け合うためのご近所付き合い、普段からの家族との話し合いなど、たくさんの意見が出されました。

【主な意見】

【A】ハザードマップなどの防災情報の読み方が子どもには分からない

⇒ハザードマップなどの防災情報の読み方が分からないことを解決するにはどうすればいいと思いますか

大人でないとできないこと・大人の協力がいること

- ・ 簡易版、優しい日本語、多言語版を作る
- ・ 大人用と子ども用を作る
- ・ 大人も子どもも含めた色々な人が話し合っ作
- ・ ハザードマップの使い方（読み方）を学校で教える
- ・ ハザードマップを地域の看板、町内の掲示板に貼る
- ・ 街の中のデジタル掲示板で危険度を知らせる
※デジタル掲示板に「逃げて」「ここはO K」などの表示をするイメージ
- ・ AI にわからないことを聞ける機能を作る
- ・ 津波対策として大きな壁を造る

子どもでもできること

- ・ 自分たちで作る、子ども用をつくる
- ・ 個人でハザードマップを確認しておく
- ・ ご近所付き合いを普段から大切にし、いざという時に助け合う
- ・ 普段から様々な情報ツールを使う
ex) スマホ、ラジオ、新聞、TV

【B】地震が起きたときに子どもが分かる情報がない

⇒次の B - 1 ～ B - 4 のような状況が起こらないようにするには、どんなそなえが必要ですか

< B - 1 何が起きているか、どこが危険か分からなくて、不安・パニックになる >

大人でないとできないこと・大人の協力がいること

- ・ 学校主催で家からの避難訓練を行う
- ・ テレビの 2 c h で緊急情報の子ども版を放送してほしい
- ・ 大人が子どもに冷静に状況を伝えられるようにする
- ・ 掲示板などを全部ひらがなで書く

子どもでもできること

- ・ 家族とハザードマップで危険な場所を確認する
- ・ 情報共有できる人で集まれるようにしておく
- ・ 普段からご近所さんたちと仲良くして災害時は助けてもらう
- ・ 過去の映像を見てイメージできるようにする

< B - 2 今、何をすればよいか分からない >

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ 子どもでもわかるようなマップや対処方法を配る
- ・ 防災体験を多く行う
- ・ キッズケータイに「助けて」とかコミュニケーションとることが苦手な人のための音声ツールを作る

子どもでもできること

- ・ 子どものための防災の本を見て準備する
- ・ すぐ避難できるように避難用持ち出し袋を用意しておく
- ・ 父や母の電話番号などを覚えておく
- ・ 地震が起きた時にどう動いておくかを事前に知っておく

< B - 3 逃げる場所、逃げ方が分からなくなる >

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ A I が状況に合わせた道案内してくれる
- ・ 学校の町探検で避難場所などを案内してもらう（避難場所だけでなく A E D、消火栓なども）
- ・ 学校の先生等の大人が見守り、違う方向に向かっていたら教えてくれるようにする

子どもでもできること

- ・ 地震が起きた時にどう動いておくかを事前に知っておく
- ・ 家族と避難場所を確認しておく

< B - 4 危険と言われても自分の地域がどうなのかが分からない >

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ 位置情報で現在地の土砂崩れの危険などを教えてくれるアプリを作る
- ・ 危険な場所を宝探し形式で探して答え合わせを学校で行う
- ・ ご当地防災無線を流せるようにする

子どもでもできること

- ・ 教えてもらうのではなく自分で探す
- ・ 危険な場所だけでも覚えておく
- ・ 危険な場所を白紙の地図にマークしておく

< B - 1 ~ 4 以外について >

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ （難しい言葉が多いので）ピクトグラム等の「マーク」や「イラスト」を使って可視化する
- ・ ハザードマップはいくつかのルートにマーカーを引ける道を白線にする

子どもでもできること

- ・ 日頃からハザードマップ等を読んでおいてふりがなをふっておく
- ・ 信頼できる情報源をきめておく

【C】スマホが使えない

⇒スマホが使えないと C - 1 ~ C - 4 のような困りごとが起きますが、困らないようにどんなそなえが必要ですか

< C - 1 今の状況に関する情報が分からないので、正しい判断がしにくい >

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ 避難所の込み具合を全体にアナウンスできるようにする（光化学スモッグのように）
- ・ 町内放送で防災情報を放送できるようにする

子どもでもできること

- ・ 市の避難訓練に参加する、参加は子どもだけでも

<C-2 普段関わっている人と連絡がとれない>

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ 公衆電話に慣れておく、使い方を学校で教える

<C-3 この道かわからなくて道に迷う>

子どもでもできること

- ・ ハザードマップを覚える、常備する
- ・ 事前に避難場所を確認する(GIGA 端末等で)
- ・ どこか遠くに行く時にしっかり決まった場所への行き方を調べる。目印を覚える。

<C-4 災害伝言ダイヤルが使えない>

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ 地域の掲示板に災害伝言コーナーを作り、災害時に誰が無事か確認できるようにする

子どもでもできること

- ・ 伝言板みたいなものを家に置いておく
- ・ 家族などと災害時に待ち合わせる場所を決めておく(第2待ち合わせ場所も)

<C-1~4以外について>

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ (ライトが使えないので) キーホルダー型のミニライトをバックにつけておく
- ・ (ライトが使えないので) 懐中電灯を常備する
- ・ (充電ができないので) 太陽光パネル、充電バッテリーを避難施設に常備する

子どもでもできること

- ・ (助けを呼べないので) 非常用のブザーを常に持つておく
- ・ (ゲーム等ができないので) 他のストレス発散や娯楽の方法を見つけておく
- ・ スマホのない生活に慣れる、普段からスマホに頼りすぎない

【D】家族と連絡がとれない・会えない

⇒家族と連絡がとれない・会えないとD-1~D-4のような困りごとが起きますが、困らないようにどのようなそなえが必要ですか

<D-1 どのように行動すればいいかわからない>

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ 普段から周りの家の人(親と連絡ができる他の大人)との関わりをもち、発災時に励まし合ったり地域で協力できるよう、お互いのことを知る機会を作る。

子どもでもできること

- ・ 家族と集まる所を決めておく
- ・ 家族と決めたことを紙などに書き忘れないようにする

<D-2 危ない場所にいつてしまうかもしれない>

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ 学校とかで危険な場所とか知っておく

子どもでもできること

- ・ 家族と集まる所を決めておく

<D-3 家族の状況がわからなくて不安・パニックになる>

子どもでもできること

- ・ 一人で避難所に行けるようにする
- ・ 家族の電話番号だけでなく会社の番号なども知っておく

<D-4 ご飯が食べられない>

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ 防災バックに事前に非常食を入れておく
- ・ 緊急用バッグをキャリーケースにする
- ・ 皆が食事できるよう、非常食を配ったり地域で炊き出しが行えるようにする

子どもでもできること

- ・ 非常食の場所などを確認しておく

【E】ケガをしてしまう

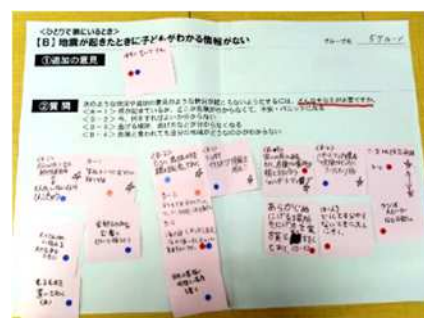
⇒地震が起きたときにケガしないようにするには、どうすればいいですか

大人でないとできないこと・大人の協力があること

- ・ 突っ張り棒などで家具を固定しておく
- ・ ガラスを強くする（ガラスにフィルム貼るなど）
- ・ 玄関にできるだけものを置かない
- ・ 食料がなくても水は用意する。
- ・ 救急道具を用意する
- ・ 骨折キット使えるようにする
- ・ 壁に重い物をおく（タンス、本棚など）
- ・ 地域の人と公園などで手当ての方法を学ぶイベントを開く

子どもでもできること

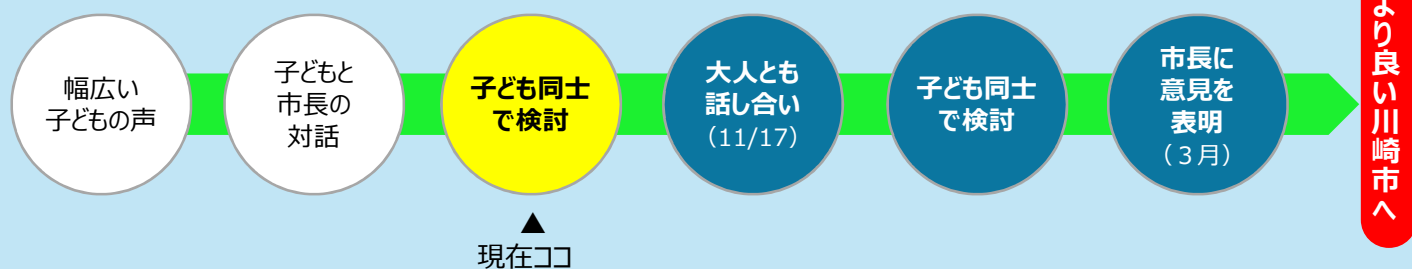
- ・ 家の中ではスリッパを履く
- ・ 身の回りの物を使う方法を知る
- ・ 事前に危険な場所を調べたり確認する
- ・ 避難訓練で安全な場所を皆で共有する



参加していただいた皆さん、ありがとうございました！

今後の予定

川崎市子ども会議の定例会議で、子どもが必要と考える地震のそなえについて、意見の整理や絞り込みなどを行っていきます。また、11月17日には、子どもと大人で意見交換を行い、さらに意見をブラッシュアップし、3月に市長に子どもの意見を伝えていきます。



<問い合わせ> 川崎市教育委員会事務局 生涯学習部 地域教育推進課
TEL 044-200-3565
メール 88chiiki@city.kawasaki.jp